

Tokyo Kasei Press

VOL.
87
2021.1

02-03 年頭所感「コロナ禍での自己研鑽」「創立140周年からのスタート」
04-07 地域に寄り添う大学であるために -東京家政大学ができること-



- 08 - 09 コロナ禍での就活、食品企業へ内定
- 10 - 11 短大保育科“ミュージカルの創造を通して”
- 12 オンラインインターンシップ
- 13 リモート劇への挑戦(演劇部)
- 14 - 15 新しい国際交流、英語教育
- 16 - 17 附属女子中学校・高等学校
- 20 博物館 特別企画展「きものと色」
- 24 理事長コラム“世界を生きる”

 しなやかに、凛と生きる。
TOKYO KASEI UNIVERSITY

東京家政大学大学院
東京家政大学
東京家政大学短期大学部
東京家政大学附属女子中学校・高等学校

創立140周年 からのスタート

学長 山本 和人

令和3年、本学創立140周年の節目となる新年を迎えることができ、心よりお慶び申し上げます。

「本年も本学にとって激動の年である」と申し上げました。振り返れば、「激動」というよりは「激震」「地殻変動」の年でありました。日本全体、世界全体が新型コロナウイルスCOVID-19の感染力に震撼し動けずにいきました。その間に経済活動は止まり、人びとの行動も変化しました。大陸の形状はそのままに国や人びとの繋がりと移動・行動が全く異なってしまったのです。

大学も変わりました。構内への入り口は限定され、検温所が設置されました。校舎入り口などには消毒用アルコールが置かれました。授業は遠隔が中心となり、学生の安心・安全を配慮しての措置ですが、大学が最後まで通学を認めないことが責められもしました。

一方、遠隔授業のメリットも見つけ、積極的に取り入れることになりました。授業科目の再構築も求められるでしょう。思いつきにすぎませんが、科目分類は、知識・技術修得科目・態度修得科目・問題解決体験科目・教員学生の人格触れ合い科目などと、遠隔を前提の区分になるかもしれません。同時開講で複数

教員担当科目は特に、担当教員が協力してコンテンツを作り上げ、各クラス共通の内容を受講できる科目にすることも考えられます。コンテンツ作りは今後大学間競争にもなるでしょう。使用テキストよりも、コンテンツとしての授業内容の質が求められることになりそうです。ここで気づくのは、DX（デジタルトランスフォーメーション）化の必要性です。肅々と進めてきた教育活動とそれを支える事務活動も、本当の意味でのデジタル化と仕事の変化こそが求められているのです。

オンラインでの授業を体験して改めて思うことは、「言葉の力」です。話し方よりも学生たちの心に届く言葉があります。たとえ話し方がうまくなくても、言葉自体の持つ力で、学生に届きます。大学開学当初の学長・青木誠四郎先生が水曜講座を開き学生に語りかけたのは、その重要性に気付かれた上でのことでしょう。愛情・勤勉・聡明の生活信条はその中から生まれました。言葉はそれが語られる人とともにあり、人格を持っています。

東京家政大学の次の10年を目指して、困難をバネに、教職員並びに学生ともども元気にスタートしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



コロナ禍を活用、 自己研鑽を積む

理事長 菅谷 定彦

渡辺学園が創立140周年を迎えた新年ですが、私達は新型コロナウイルスの拡大が続く中「明けましておめでとう」と心から祝えない状況下にあります。

学園の感染者は学生、生徒、教職員の日々たゆみない努力の結果、ごく少数に抑え込まれています。今春多くの支持を得て新学長に就任する井上俊哉副学長らの尽力によるオンライン授業の展開、理事会主導による学生、生徒へのコロナ対策給付金、各種の感染防止対策も効果的に進んでいます。コロナ阻止の決め手となるワクチン開発は米のファイザー社など世界360の企業や機関で急ピッチで進められ、東京オリンピック・パラリンピックの開催予定の本年7月23日までは、副作用のない安全なワクチンがわが国でも行き渡る可能性が出てきました。

そこで学生、生徒の皆様にお願ひしたいのは、うがい・手洗い・消毒・3密（密閉・密集・密接）回避の対コロナ防疫策を継続しつつ、今でしか出来ないオンラインの習熟、家族との対話、読書など教養力の強化にフルに時間を使い、自己研鑽を積んでいただきたい。教職員にも多忙な中ではありますが、ポストコロナに備えて教育・業務内容、学生、生徒への接し方を今一度点検していただきたい。「生き残れるのは知力、体力のある者ではなく、変化に適応出来る者」（チャールズ・ダーウィン）だからです。

昨年は少子化に加えコロナ感染拡大の異常な1年でしたが、学園の中心核、東京家政大学の評価は上昇しました。8月に「大学通信」が発表し

た2019年度卒の全国就職率ランキング（卒業生1,000人以上の女子大学13校）で家政大は昭和女子大に続き95.4%と第2位を堅持しました。コロナによる内定取り消しをカウントしてもこの第2位に変わりはないとみています。

続いて9月に「リクルート進学総研」が発表した「高校生に聞いた志願したい大学」ランキングで、家政大は関東地区の女子大で、私立・国立32校中第1位に返り咲きました。2013年以降7年ぶりのことです。全国の「行きたい大学」でも17位と2019年の21位を上回り2015年の16位に次ぐ高位です。この分野の2020年のトップは立教、2位青山学院、3位早稲田の順でした。

建学の精神「女性の自主自律」に基づき、女性活躍時代の中、国家試験の現役合格率（2020年3月卒）で管理栄養士が97.1%・166名（全国平均61.9%）、看護師98.9%・94名（全国平均89.2%）とトップグループを長年堅持した実績が大きく、教職員、学生の血のじむ努力が高く評価できます。

新型コロナウイルスの感染拡大が本格化した昨年春、政府の要請もあり卒業式、入学式とも中止した後の4月中旬、当面実施不能の対面授業のバックアップとしてのオンライン授業用パソコン取得・学生への配布指導に1億2,000万円の支出を決定。4月末には大学生に附属中高生徒も加えた8,000人に1人5万円（計4億円）の一時給付、アルバイト減少などによる生活困窮学生100人に1人7万円の追加給付

（700万円）。さらには板橋、狭山両校舎入口での体温検査場4ヶ所の設置など計7億円のコロナ緊急対策をスピーディに実施しました。

本学の卒業生で構成される緑窓会が昨年10月に決定していた奨学金1億円も学生を勇気づけるでしょう。

理事会は4年前から学長選挙に従来の教授会だけで選ぶ方法から、理事、外部学識経験者も参画する新方式の変更に始まり、長年入学者の減少を主因に赤字を続けてきた中高の再建計画実行など「教育、財政、意識」の3大改革を粘り強く推進してきました。

そして昨年5月上旬にはコロナ禍の長期化を見通し、この機をとらえて懸案の構造改革の第1弾を実行に移しました。その柱は過去数年間続いている予算の未消化率10%分を全部門でカットすると共に、問題意識共有のため2020年度の専任教職員の賞与を6%カットするのがポイントです。昨年11月末、半年かけての作業にもかかわらず、削減額は5%弱と予定の半分に留まりましたが、多めに予算をとり、毎年その分を積み残すのは、一般企業では考えられない悪弊で、今後とも目標達成へ粘り強く作業を続けたい。

コロナとの闘いが東京オリンピックまで続くと思えば、あと半年以上この間の不平、不満、不自由さを乗り越えて各人何をなすべきかをよく考え、実行しましょう。建学の精神「女性の自主自律」を改めて自らの目標に設定し、校歌の「たゆみなく、いざやばげまん」を念頭に、自己研鑽を積み上げる、その時は今です。

創立から140年の歩み

- 1881(明治14)年 校祖・渡邊辰五郎が私塾「和洋裁縫伝習所」を開塾。
- 1922(大正11)年 「東京裁縫女学校専門部」を創設、さらに「東京女子専門学校」と改称。
- 1949(昭和24)年 東京家政大学(家政学部生活科学科、被服科学科)を設立。
- 1950(昭和25)年 東京家政大学短期大学部家庭科(児童栄養専攻、被服専攻)を設立。
- 1986(昭和61)年 文学部(英語英文学科・心理教育学科)を設置、狭山校舎開学。
- 1989(平成元)年 大学院家政学研究所修士課程(食物栄養専攻・被服造形専攻)設置。
- 1992(平成4)年 大学院家政学研究所修士課程(児童専攻)設置。
- 1996(平成8)年 大学院文学部研究科修士課程(英語英文学専攻・心理教育学専攻)設置。
- 2002(平成14)年 大学児童学科に育児支援専攻を増設。
- 2003(平成15)年 大学造形表現学科を設置。
- 2009(平成21)年 大学家政学部(新設:児童教育学科/改称:環境教育学科)、人文学部(新設:心理カウンセリング学科、教育福祉学科/改称:英語コミュニケーション学科)の新体制でスタート。
- 2012(平成24)年 大学院人間生活学総合研究科設置。
- 2014(平成26)年 狭山キャンパスに看護学部看護学科、子ども学部子ども支援学科設置。
- 2018(平成30)年 看護学部を健康科学部へ改称、リハビリテーション学科設置。

創設者 渡邊 辰五郎

女子教育の第一人者であり、国会図書館のホームページでは「近代日本人の肖像」の教育家13人の一人として吉田松陰や福沢諭吉らと共に紹介された(現在は42人)。



地域に寄り添う 大学であるために

東京家政大学ができること〈子育て・医療編〉

循環器疾患のある方や在宅ケアが必要な地域住民に寄り添う

アレルギーや発達障がいを持つ子どもに寄り添う

出産前後の母親に寄り添う

子育て中の保護者に寄り添う

悩みやストレスを抱える人に寄り添う

東京都板橋区と埼玉県狭山市にキャンパスがある東京家政大学。学生・生徒が学び成長する場であると同時に、この地域を生活圏として暮らしている方々にとって、身近な“ご近所さん”として頼れる存在であることも、わたしたちが果たすべき大切な使命です。

人が生まれ成長し、他者と助け合い、自分らしく生きるために、東京家政大学は長年にわたって幅広い専門分野で知見を培ってきました。そして、同じ地域とともに暮らす“ご近所さん”が、誰ひとりとして取り残されることなく、自分らしく過ごせるように、大学の知見を活かした地域への支援活動も、本学の重要な役割であると考えています。

不安でいっぱいな時には、もたれかかれる肩があること
疲れ切った心身を解放し、リラックスできる場所があること
自分の個性や好きなことを、思いっきり表現する時間があること

東京家政大学は、“ご近所さん”に寄り添い続けます。

※本特集(P.4～7)でご紹介している本学の取り組みに関して、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、予告なく内容や時間に変更が生じる可能性があります。利用希望の方は事前に担当部門までお問い合わせください。

in 板橋 臨床相談センター

地域住民の悩みや不安に寄り添う場所

1999年に発足し、板橋区・北区等の地域の子どもや若者、一般成人等の相談のほか、発達障がいの相談業務を行い、地域に開かれた臨床相談の場としての役割を担っています。臨床心理士・公認心理師の資格を有する本学の教授や相談員12名の体制と大学院実習施設として運営し、地域の方々のこころの悩みなどについて相談をお受けしています。職場や学校での人間関係、親子関係や夫婦関係の悩み、気分の落ち込みや不安、子育てに関する悩み、発達の遅れに関する悩みなど、年齢や性別に関係なく、さまざまな相談に臨床相談の専門家が個別に対応します。

また、土曜日には小学校高学年から中学生までの発達障がいを持つお子さんに対する「学習支援+SST（ソーシャルスキルトレーニング）」を実施しています。SSTを通して、参加している子どもたちが、対人関係や集団生活を営みやすくするための技能（スキル）を養い、集団の中でその子らしく過ごせるよう



■相談時間：月～土 10:00～12:00、13:00～17:00
■相談料金：1回（約50分）3,000円～
■電話受付：03-3961-0770（月～土 10:00～16:00）
※当センターは医療機関ではありませんので、健康保険等の適用はありません。
※プライバシーは厳守いたしますので安心してご相談ください。

in 板橋 森のサロン

地域の親子がほっと一息つける場所

東京家政大学は、2010年より全国でもいち早く大学のキャンパス内に子育てひろば「森のサロン」（板橋区地域子育て支援拠点事業）を開設しました。少子化や核家族化、地域とのつながりの希薄化が進行する都市部での子育ては、孤立しやすく、親子で社会とのかかわりをもつことができる居場所が求められます。緑豊かなキャンパス内の一室にある「森のサロン」は、学生、教員、スタッフ、地域で活躍する専門家など、多くの人とかわりながら、子育てをともに楽しむ交流と学びの場として機能しています。保育者養成の長い歴史や栄養、造形表現、心理、教育福祉など、大学の幅広い知見を活かし、全学科がボランティアで参加できる仕組みやさまざまな取り組みを行っています。

あそびのひろばは0～3歳のお子さんを持つご家庭の方はどなたでも無料で参加でき、オリジナルの遊具や手作り玩具、学生が制作した大型遊具などで気ままに遊ぶことができます。月に1回程度、学内外の講師による「健康」「食育」「ふれあい遊び」「自然環境」「幼児造形」など、子ども



■開催日：月～金曜日 10:00～16:00（12:00～13:30は閉室）、水曜午後 相談日
■電話受付：03-3961-6354（9:00～17:00）
■メール：morinosalon@tokyo-kasei.ac.jp
※その他、予約制の講座・イベント・週末サロン・リフレッシュ保育も行っていきます。

や子育てに関する講座やイベントを開催しています。また、学生による絵本の読み聞かせやおやつ会などのミニイベントも人気の一つです。その他、専門のスタッフによる予約制の個別相談、大学独自の事業であるリフレッシュ保育（予約制・有料）も月に数回行っています。大学の自然や環境を活かした週末サロンでは、草花あそびやクラフト、アートワークショップを行い、地域の子育て世代がのびのびと過ごすことができるあそびの提案を実施しています。この週末サロンのアートワークショップを学生が企画、実施し、冊子制作を行う「学生がつくるサロンプロジェクト」は、厚生労働省が主催する「第9回健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」にて表彰されました。今後も大学の学びと地域をつなげ、親子の幸せで豊かな生活を支える居場所としての発信をしていきます。

in 狭山 かせい森の 産後ケアサロン

出産前後の女性が その人らしく 元気を取り戻す場所



出産後の女性が、体力を回復し心理的に安定するまでには、少しの時間と人の手助けが必要で、何となく感じる体の怠さ、ぐっすり眠れない、育児の不安やイライラなど、産後の母親が元気を取り戻すための場所として、東京家政大学は「かせい森の産後ケアサロン」（かせい森のクリニック産後ケア部門）を開設しました。

産後の母の健康は、その後の女性の自立や親子関係の発展に大きく関わり、特に産後ケアは、産後うつ防止や虐待防止の観点から注目され、ニーズが高まっています。しかし、実際には産後ケア体制は十分に整っていない状況です。産後うつは、出産した母親の10人に1人の割合で現れ、そのリスク要因には、育児不安やストレスが考えられています。核家族化により家族や周囲のサポート不足が指摘され、産後の早い時期から母親の心身の健康を守る支援が求められています。

そこで、産後の母親の身体的回復と心理的な不安を限り、健やかにその人らしく育児ができるよう、東京家政大学では「かせい森の産後ケアサロン」を拠点に産後ケア事業に取り組みんでいます。狭山キャンパスには助産師等の看護職者を育成している「看護学科」、保育士や幼稚園教諭を育成している「子ども支援学科」があり、同じ敷地内の「かせい森の産後ケアサロン」では、産後の母親がその人らしく元気を取り戻す、支援を母子の健康に関する専門知識と技術を持つ助産師等が行っています。



■営業時間：月・火（9：00～12：30）、水～金（9：00～16：30）、土日祝日はお休み
■電話受付：04-2955-6108（月～金9：00～16：30）
■メール：sangocare-salon@tokyo-kasei.ac.jp
■利用方法：予約フォームから必要な情報を送信してください。
<https://morino-sangocare.com/reserve1.html>

in 板橋 児童発達支援事業所 わかくさ

未就学児の発達を 支援する場所

発達に遅れのある幼児の保育を、1966年から跡見一子児童学科教授（医師）が数名の学生の手伝いによって始めたのが「わかくさ」です。その後、1978年には東京都と板橋区から補助金を受け「わかくさグループ」として母子通所の施設に発展しました。そして、2020年7月からは、児童発達支援事業所「わかくさ」となりました。対象は、板橋区・豊島区・北区在住の1歳半頃～就学前までのお子さんです。

「わかくさ」では、保護者やまわりの大人が、その子らしさをを受け入れ、子どもたちが楽しい毎日を送れるように援助していきたいと考えています。また、通室は保護者の方と一緒に来ていただけます。保護者の方が、お子さんと一緒に遊び、私たちスタッフと共に、お子さんの姿を見つめ、新たな一面の発見を共有しながら、お子さんの理解を深めることが必要と考えるからです。

療育の内容は、集団指導と個別指導があります。集団指導は、少人数のグループで楽しくあそ



■受付時間：月～土曜日 9：30～16：30
■電話：03-3961-1977
■入所手続き：親子で見学後、入所が決まったら、地域の福祉事務所で受給者証の発行申請をし、契約します。
■対象：1歳半頃～就学前

びながら、あそびの面白さや人とのかわり方を伝えていきます。小さい集団の中でゆっくり丁寧に取り組むことで、できた！という経験ができます。成功体験を積み重ねていくことで自信をつけ、力になっていきます。

また、個別指導は、年中児に対しては保育士が、就学前の年長児に対しては公認心理師が行います。一緒に遊びながら、個々の課題に合わせた療育をしていきます。その子に合った個別指導と小さなグループの集団指導の両輪で、子どもたちの力を引き出していきます。

「わかくさ」は、保育・教育・心理・社会福祉などを専門とする大学教授や保育経験者などの多彩なプロフェッショナルが、地域の子どもたちやその保護者に寄り添っています。

in 狭山 かせい森の放課後等 デイサービスつくし

障がいのある小中学生が 自分を好きになる場所

2015年に狭山キャンパス内で障害児通所支援施設として開設された「かせい森の放課後等デイサービスつくし」は、子どもたち一人ひとりの発達を見据えて、自立と充実した人生を応援することを活動目標に、小学校1年生から中学校3年生の障がいのある子どもたちが放課後に活動をしています。施設長は元教育長、副施設長は大学准教授、スタッフは全員小中学校経験者で構成され、狭山市・入間市教育委員会とも連携して運営されています。

絵画造形活動・音楽・身体活動などを通じて、好きなことや得意なことに取り組み、自己肯定感を高め、自立を図ることを応援しています。子どもたちの心の中にある思いを表現活動によって発散させることにより、心の安定を図りながら、共同制作を通じたコミュニケーション能力等の社会性も養います。

子どもの支援だけでなく、保護者の支援にもきめ細やかに対応しています。子どもを送迎している保護者がお茶を



■ご利用希望の方は、まずは電話にてご相談ください。
教室見学・面談のご予約をいたします。
■電話：04-2955-6969 ■対象：小学校1年生～中学校3年生

飲みながら情報交換を気軽にできる場を設けたり、校内にある「かせい森のクリニック」と連携して小児神経内科（発達障がい）の医師と話し合う機会を設けたり、さまざまなアプローチで保護者のサポートを行っています。また、子どもの将来の自立に向けて、早い段階から保護者が心にゆとりを持てるよう、高等特別支援学校への見学など、進路先見学も実施しています。

障がいのある子どもたちが将来を楽しく生きるために、またその保護者が追いつめられることなく心豊かに養育にあたることできるように、経験豊富なスタッフが関係機関との連携を織り交ぜながら、地域や家庭との結びつきを大切に、子どもたちをバックアップしています。

in 狭山 かせい森の アレルギー クリニック

アレルギー疾患や発達障がいなど、 経験豊富な医師が 診療にあたる場

狭山キャンパス内にある「かせい森のクリニック」は、地域における小児科領域と内科領域の専門診療、産後ケアおよび在宅ケア（訪問看護）を行うことを目的として運営しています。診療は、小児アレルギー科、小児神経内科（発達障がい）、内科、循環器内科を扱っています。

さまざまな支援を要する子どもに的確な保育実践ができる保育者の養成を目指す「子ども支援学科」には、アレルギー疾患や発達障がいを持つ子どもについて長年にわたって研究し、小児科医として病院での診療にあたってきた経験豊富な教員がいます。また、あらゆる年代にお



■診療案内：全て予約制ですので、電話にてご予約をお取りください。（電話：04-2952-1639）

	診療日時	電話予約
小児・アレルギー科	平日 月曜日（13：00～16：00）	平日 月～金曜日（10：00～17：00）
小児神経内科（発達障がい）	平日 月曜日（13：00～16：00）	平日 月曜日（10：00～17：00）
内科、循環器内科	平日 火曜日（13：00～16：00）	平日 月～金曜日（10：00～17：00） ※当日受け付けは10：30まで

※初診でじっくりお話を聞き、診察をします。小児・アレルギー科は約1時間、小児神経内科（発達障がい）は、約1時間半かかります。（産後ケア部門については、産後ケアサロンの記事を参照。）

ける人々の健康の保持増進と生活の質の維持向上に貢献できる人材を育成する「看護学科」では、診療・研究経験が豊富な内科医も専門科目の講義を担当し、研究活動に動いています。「かせい森のクリニック」では、そのような医師たちが、その知識や経験をいかしながら、丁寧で親身な診療を行っています。

また、看護学科の教員が産後ケアや在宅ケア（訪問看護）にも取り組むことで、住み慣れた地域での生活を総合的に支援する体制を整え、地域に根差した支援を目指しています。



「株式会社ニチレイフレッシュ」内定
家政学部栄養学科管理栄養士専攻4年

北野 絢子さん

「一人でも多くの方に」 を叶えるため 影響力のある 食品企業へ就職

本号では、2021年3月に卒業を迎える学生紹介として、家政学部栄養学科管理栄養士専攻4年生の北野絢子さんをご紹介します。「食」で健康に携わることに魅力を感じて管理栄養士専攻に入学、当初は医療に携わる管理栄養士を目指していましたが、大学の授業やインターンシップを経験するうちに、将来のキャリアプランが徐々に変わったという北野さん。自分が社会で何をしたいのか、その思いをどこでどのように叶えるのか。東京家政大学での4年間を振り返り、卒業後の女性像についても話を聞きました。

授業以外の「マイ時間割」を作成

Q：東京家政大学の管理栄養士専攻に入学した理由は？

医療に携わる管理栄養士を目指したいと思ったからです。幼少期に数年間闘病し、乗り越えた経験から、このような目標を持つようになりました。医療従事者の中でも管理栄養士を目指したのは、わたしたちにとって最も身近で欠かせない「食」で健康に携われることに魅力を感じたからです。東京家政大学は管理栄養士養成校としての伝統が長く、落ち着いた雰囲気や自分に合っていて、高校1年生の冬頃には「わたしもこの大学に通いたい！」と第1志望にしました。家族、高校の先生の勧めもあって公募推薦を受けて入学しました。

Q：大学生活で大変だったことは？

授業の課題をやり遂げることに最も苦労しました。特に大学3年生の後期は、3つの調理系授業、2つの実験系授業、行政栄養士実習、管理栄養士国家試験対策が重なり、課題やレポートがとて忙しかったんです。どうにかして全て両立できないか…と思い、生み出したのが「マイ時間割」です。大学の授業以外の「マイ時間割」を毎週作り、やるべきことをリストアップして、優先順位をつけながら生活するように心がけました。繰り返していくうちに、「気付いたらここまで力では難しそうなお仕事であっても、チャンスをいただけたら積極的に挑戦したいですね。そして将来的には、「わたしもあなたのようにになりたい」と女性にとってキャリアの目標になれたら嬉しいんです。これからも自分自身を高めていき、人として魅力的になれるように頑張っていきたいです。」

Q：大学生活を通して自分が成長できた点は？

前述の「マイ時間割」の話とも少し重なりませんが、時間の使い方や物事の考え方が成長したと思います。勉強では「どのように進めれば、効率が良いだろう」と常に模索していましたし、アルバイトでは「自分にはどのような行動が求められるのか」を考えているから、主体的に行動する習慣が身に付きました。まだまだ未熟な点はたくさんありますが、社会に出てからもこのような姿勢を大切にしていきたいです。

Q：課外活動はどんなことに取り組みましたか？

サークルとアルバイトです。サークルは他大学と合同のフットサルサークルに所属しています。授業が忙しく他の学生よりも多くは参加できていないのですが、

Q：先輩に向けてメッセージをお願いします。

この先何か困難な局面に立ったとき、逃げ出したくなることもあるかもしれませんが、わたし自身の学生生活を振り返ってみても、大変なことは正直たくさんありました。このようなときこそ、前向きな姿勢を大切にしてください。前向きな姿勢を大切にしてください。成果が大きく変わってきます。失敗を恐れず、様々なことに前向きに挑戦してみてください。皆さんが今頑張っていることは、必ず将来の自分の助けになると思います。「できない理由を見つけたら、とにかく行動する」「今頑張れば、未来のわたしが感謝する」という言葉で、皆さんにエールを送りたいです。

「コロナ禍だからこそ見える企業の本質」

Q：就職先として食品企業を目指した理由は？

参加する度にリフレッシュになって楽しいです。アルバイトは塾のチューターをしていて、高校卒業後から現在も継続しています。大学2年生頃から後輩アルバイトの育成をしたり、責任ある仕事を任せていただいたりと、様々なことに挑戦させていただきました。

どちらも共通するのは、「何か自分ができることはないかな」と常に考えて動いていたことです。サークル、アルバイトを通して、責任感や自分を客観視する姿勢が磨かれたと思います。



「お客様の一食の価値を高め、健康で豊かな生活を支えたい」という考えからです。もともと医療に携わる管理栄養士を目指していましたが、しかし、大学の授業やインターンシップを通して、徐々に考えが変わっていききました。管理栄養士として医療現場で働くことはもちろん素晴らしいことですが、多くの場合、対象者が患者さんに限られてしまいます。わたしの場合は「一人でも多くの方に」という想いが強かったので、それならばより影響力のある食品企業で働きたい、と考えるようになりました。そして、「一食の価値を高める」ことがより健康や豊かさにつながれると感じ、これを軸にして就職活動をしていました。

Q：10年後に理想とする女性像は？

「あなただから任せられる」と、会社内外から信頼していただける人になりたいです。そのために、社会人として早く一人前になれるように、様々な仕事を経験していきたいなと思います。自分の実

今頑張っていることは将来の自分の助けに

Q：東京家政大学に入学して良かったと思うところは？

たくさんありますが、特に感じるの「面倒見の良さ」と「素晴らしい友人に会えたこと」です。行政栄養士の実習先で課題が出たとき、ご多忙の中でも担当の先生・助手の方がとても丁寧に添削してくださいました。今でも心に残っています。他の授業でも、少し疑問に思ったことを質問すると、その回答に加えて周辺の知識まで教えてくださりました。

研究室の佐藤吉明先生には特に、就職活動の際も親身になって相談ののっていただきました。そして、4年間の学生生活を共にした友人とは、本当にたくさんの思い出があります。楽しい思い出はもちろん、辛い思い出も友人なしでは語れません。「頑張ること」を後押ししてくれる先生方・友人がいたからこそ、今のわたしがあるのだと思います。関わってくださった皆さんに、心から感謝しています。



ミュージカル創作を通して、未知なる世界に心を宿す



花輪 充教授 × 川合 沙弥香助教

短大保育科の授業「保育総合表現」は、学生と教員が一丸となってオリジナルミュージカルの創作に取り組んでいます。2011年度の科目新設から、毎年12月下旬に板橋キャンパスの多目的ホール・三木ホールでミュージカルの発表公演を行ってきました。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、インターネットでの動画公開に変更、2021年1月にその動画が公開されました。保育者養成におけるミュージカル創作を通じた教育に込める想い、コロナ禍でのオンラインと対面を組み合わせたハイブリッドの授業運営について、この授業を担当している花輪充教授と川合沙弥香助教に話を聞きました。

保育とミュージカル創作 芝居を通じた疑似体験が 保育現場に役立つ

保育者としての総合的な表現力の育成を目指して開講されている「保育総合表現」について、花輪教授は「この授業で創作するオリジナルミュージカルの発表公演を観て、短大保育科への入学を志望する学生も増えていて、責任重大です」と語ります。



ミュージカル創作という表現力や演技力の育成が真っ先に浮かびますが、社会人に最も求められる集団でのコミュニケーション能力や、他者理解、ストレスコントロールなど、主体性や社会性を伸ばす授業でもあります。「芝居を創ることには相当な協働性が必要で、周囲との相互理解が不可欠です。かつ、限られた時間の中で物事を進めていかないといけない。つまり、相手のことを理解しないと前に進めないし、自分と相手の考え方が違うことは当たり前だと受け止め、そこからどうやって物事を動かすかという、ミュージカル創作を通して得られる複合的な体験が大きな意味を持っています」(花輪教授)

そして、卒業後に保育者の職に就く学生が多い中、保育現場で役立つ体験も積み重ね、学生は成長していきます。「例えば、台詞の稽古では、一言しか台詞がないと気を抜く学生もいます。しかし、その一言に宿す役の心境だったり、それま



2013年度「ドロシーの大冒険」でのスケッチブックシアターは、保育の教材としても活用され、学生たちは他の授業で学んできたことを応用しながら取り組んでいる。

学生の尊重、教員の指導 主人公の周囲が担う 役割にも焦点を

この「保育総合表現」は、学生と教員が互いを尊重し、ミュージカル創作を進める点も大きな特徴です。「大まかな台本を教員は用意して提案しますが、学生の意向や表現を勘案して、本番直前まで台本が変わる状況もあります。学生からこの部分はこう変え



2019年度「リックとグエンディ」

「自分が主人公になれなくて、わたしはダメだったと思って欲しくない。主人公は、周囲の人たちと出会うことで、生きる上でのさまざまな選択をして、周囲の人たちの思いを重ねて生きていきます。主人公が全てじゃなくて、周囲の役割の重要性にも、学生には気づいて欲しいのです。主人公だけでなく周囲にも焦点を当てられる観点というのは、保育の現場でも非常に大切なことです」(花輪教授)

コロナ禍での授業運営 対面授業の時間が 限られているからこそ

2020年度前期は全てオンライン授業でしたが、後期に入り感染状況が少し落ち着いてきた時期から対面授業も増え始め、「保育総合表現」の授業はオンラインと対面を組み合わせさせて実施しました。10回ほどの授業が対面で行われました。

オンラインと対面を組み合わせた授業運営について、「例えば、授業支援システム上に次回の対面授業で踊るダンスの見本動画をアップロードして、学生には個別に事前練習に取り組んでもらいます。対面授業の際には、『練習してきたダンスを踊ってみよう』というように進める具合です」(川合助教)

対面授業で何をやるのか、そのために事前にオンラインでできる準備を考え、授業内容を精査しながら、無駄がないよ



2019年度「リックとグエンディ」

うに授業スケジュールを綿密に組み立てています。学生の練習度合いを聞いてみると、「当初はあまり練習して来ないんじゃないかな」と思っていました。その予想は全く外れました。驚くほどに学生が練習してきました」(花輪教授)

対面授業の時間が限られているからこそ、その貴重な時間を有効に使おうという意識を学生も教員も強く持っています。「学生が登校する際の創作意欲や気迫がものすごく出て。主体的な行動が増えましたが、対面授業の質は確実に上がっています」(川合助教)

また、これまでは導入されていた見どころがなかった授業支援システムの各機能を駆使して、教材の共有や学生への個別連絡などに役立てています。そして、以前と比べて学生の実態を深く把握でき、指導しやすくなったと言います。これは、前期の授業開始時に行った自己紹介企画が効いています。川合助教が企画し、学生一人ひとりに自分を紹介する短い動画を作ってもらい、履修者全員で共有しました。「こんなことしかできません」と学生は動画内で言いますが、わたしからすれば「こんなことができるんだ」という驚きです。以前までの授



2020年度「24 Lovely Girls」♪あ～した、元気にな～れ♪

業だったら絶対に知れない学生の側面がわかる訳ですから、声掛けや指導もより確かつ丁寧に行けるようになりました」(花輪教授)

コロナ禍での経験を機に、オンラインと対面のハイブリッドでの授業運営について、学生との向き合い方、効率的な授業運営に関しても、その経験値が確実に上がっています。花輪教授が常日頃から口にしている文句、「芝居を創り上げていく」ということは、自分ではない他者に身をおいて、想定しないことを思い、考え、訴え、受け止め、寄り添っていくことであり、誰かの半生に自分を重ね合わせ、未知なる世界に心を宿すことである」この「保育総合表現」を通して、しなやかな感性と表現力を身につけた短大生が、今年度もまた、東京家政大学短期大学部から巣立ちます。



ホタテ購入のリピーター獲得へ オンラインで参加者と養殖場を繋ぐ

就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深めることができるインターンシップ。社会に出る前にビジネスの現場を体感でき、自分を見つめ直す機会にもなります。新型コロナウイルス感染症拡大に影響され、インターンシップもオンラインで実施されている中、大学1年生で積極果敢に「オンラインインターンシップ」へ参加した学生を紹介します。

〈キャリア支援〉オンラインインターンシップ

家政学部栄養学科栄養学専攻1年 下山 葵さん

〈企業〉岩手県宮古市でホタテやホヤの養殖事業を行っている株式会社隆勝丸。隆勝丸のホタテは、貝柱が厚く歯ごたえ抜群で、市内飲食店で愛されるほか、インターネットを通じて首都圏をはじめとする個人客にも販売しています。(https://www.ryushomaru.co.jp/)

〈インターンシップの内容〉既存顧客やSNSのフォロワーを対象に、ホタテを購入するリピーターになってもらえるよう、オンラインイベントを企画・実施する。

〈インターンの流れ〉研修→オンラインイベントの企画立案
→オンラインイベントの開催→活動成果を社内プレゼン



「参加者がZoomを通じて画面越しにホタテと一緒に食べながら、驚く顔、喜び顔が多彩に映りました。その表情を見て、イベントを開催する側のわたしたちの方がむしろ素晴らしいものも多かったと感じました」と、企画に込めた思いが参加者に伝わった瞬間を振り返りました。そして、「海の上だから仕方がないのですが、関係でZoomが止まってしまうので、間を持たせるのにどうしたらいいか、とても悩みました」と、オンラインイベントならではの苦労も教えてくれました。

「参加者がZoomを通じて画面越しにホタテと一緒に食べながら、驚く顔、喜び顔が多彩に映りました。その表情を見て、イベントを開催する側のわたしたちの方がむしろ素晴らしいものも多かったと感じました」と、企画に込めた思いが参加者に伝わった瞬間を振り返りました。そして、「海の上だから仕方がないのですが、関係でZoomが止まってしまうので、間を持たせるのにどうしたらいいか、とても悩みました」と、オンラインイベントならではの苦労も教えてくれました。

自身が食物アレルギーだったこともあり、「マイノリティの人でも、食」を楽しめるような食品や環境を作りたい」との思いから、家政学部栄養学科へ入学を決めた下山さん。大学1年生でインターンシップに参加した理由を聞いてみると、「お恥ずかしいのですが、強制参加だと思って申し込みました。あとで大学1年生での参加は少数だと気づいたのですが、インターンの内容に興味があったので参加を決めました」と意外な工筆ノードを教えてくださいました。

オンラインインターンシップは、研修からスタート。インターンシップ先である「隆勝丸」がある宮古市やホタテ養殖について学ぶと同時に、今回のインターンシップで自分がどのように成長したいのかを仲間と話し合う機会もありました。「周りの大半は年上の先輩で、さらに一風変わった経験を積んできた人ばかりでした。自分にはない発想や着眼点を持っている仲間と話すことは、貴重な経験でした」と、人との出会いというインターンシップの醍醐味を語ってくれました。そんな経験豊富な仲間と囲まれた下山さんは、ホタテに関する知識だけでは他の仲間には負けないと思ったことで、インターンシップ前にホタテの名前の由来などを徹底的に調べました。研修中に講師として教えてくれる漁師さんが「それは知らなかった」という度に、ガツポーズをされていました(笑)。

「参加者がZoomを通じて画面越しにホタテと一緒に食べながら、驚く顔、喜び顔が多彩に映りました。その表情を見て、イベントを開催する側のわたしたちの方がむしろ素晴らしいものも多かったと感じました」と、企画に込めた思いが参加者に伝わった瞬間を振り返りました。そして、「海の上だから仕方がないのですが、関係でZoomが止まってしまうので、間を持たせるのにどうしたらいいか、とても悩みました」と、オンラインイベントならではの苦労も教えてくれました。

冒頭に話してくれた将来の目標を叶えられる仕事に就けるよう、今は職業に関する情報収集をしているそうです。そして、現在は、アレルギー食や低糖質食なども広く知られるようになってきましたが、まだ対応策がなくて食品摂取に困っている人も大勢います。そのような人たちの助けができれば、どんな病気があってどう困っているのかという知識を得るためにも、勉学に励みたいです」



挑んで知った集客や広告の難しさ

今回の「隆勝丸」でのインターンシップのメインでもあるオンラインイベントの企画は、グループ3人で取り組みました。タスクを洗い出し、予定を組み立て、期限内に完了できるように進行できたそうです。「ファシリテーションを学んでいる先輩が、今日やること、明日までにやってくることを毎回明確にしてくれたので、進めやすかったです。また、作業時間もずっとZoomをつないで、何かあったらお互いに聞き合えるようにしていたので、スムーズに進みました」と、リモートワークの効率的な進め方も体得することができました。

「自分ができることは何かを常に考えるようになりまし。すごい人はたくさんいる、けれど自分にしかできないこともあるはずだと考えて行動するようになりました」と今回のインターンシップを通じて、自身の成長を振り返ってくれた下山さん。そして、すでに今回の経験を次の挑戦へと繋げています。「インターンシップ後、運動会がなくなってしまう子供のためのおにぎり弁当を作るコンテストに出場し、手軽に作れるお弁当を提案して、優勝することができました」

お弁当コンテストでも優勝

リモート劇への挑戦 舞台とは違う角度から助言

2020年10月に開催された本学の学園祭である「緑苑祭」はオンラインでの開催となりました。今回は、オンラインという制約がある中で試行錯誤しながら、リモート劇に挑戦した東京家政大学公認サークル「演劇部(劇団朱鷺)」をご紹介します。

演劇ができる可能性に喜び

今年度は、1・2年生をメインに全15名の部員で協力しながら、活動しています。例年は、5月に新入生公演、8月に夏公演、10月に緑苑祭での公演、2月には冬春公演と年4回の公演を行っています。2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2月の冬春公演が中止となりました。多くの時間を費やし全員が一致団結して準備しただけに、そのショックはとてつもないものでした。それ以降も、部員が大好きな演劇に触れることができない期間が続きました。

そして、2020年の緑苑祭がオンラインで開催することが決まり、演劇部は実際の舞台には立てない状況となりました。部として緑苑祭に参加するべきか、部員同士で話し合いを重ねていた中、リモート劇の存在を知り、いつもとは違う状況でも演劇ができる可能性に喜びを感じ、挑戦することにしました。

制約の中で面白くできるか

リモート劇の最初の難関は、リモート劇でも違和感のない脚本を書くことで、これは2年生の部員が担当しました。通常の演劇では、舞台全体を使って細部にまでこだわり、その世界観を表現します。しかしな

がら、リモート劇は小さな画面の中で、しかも役者は基本的にはカメラの前であまり動けず、胸から上の部分しか映らないという制約があります。その制約の中で、物語を展開しなければなりません。実際にどこまで表現できるのかは未知数でしたが、面白くできる工夫を凝らしながら、脚本を完成させました。一方で、オンラインツールを駆使するからこそできる演出もあることにも気づき、ミーティングアプリの特性を作中に取り入れることもできました。

タイムラグで難しかった 台詞を言う「間」

脚本が仕上がった後、オーディションを経て、演技のオンライン稽古に取り組みました。演技面でもリモート劇の特性を考慮する必要がありますがありました。通常の演劇のように色々な方向からではなく、1つのカメラに正面の顔が映ることになるので、表情には特に気を遣いました。また、目線の動きもポイントでした。カメラ目線の場面と、相手が見えている画面とやり取りをする場面との使い分けを意識して、稽古に励みました。さらに、舞台の



今回、何もかも初めてのリモート劇への挑戦でしたが、振り返ってみると、慣れるまでには時間もかかり、対面でないからこそ難しい部分が必要に多かった。その一方で、良いこともありま

動画編集にも試行錯誤

リモート劇には当然、動画の編集が必要になります。稽古期間中に、同時並行で様々な編集アプリを事前に試してみたり、編集の練習をしたり、動画編集には多くの時間を要しました。実際の作業では、別撮りした音声や効果音をシーンごとにタイミングよく挿入する作業に苦労しました。何とかエディタの作成を含めた編集作業を成し遂げ、リモート劇の動画を完成させ、YouTubeへリモート劇の動画をアップロードし緑苑祭期間中に観客が視聴できるようにしました。



した。画面に正面で顔を映していることもあり、演技をしている他部員の表情が良く見えるので、いつもと違う角度から助言することができました。そして何より、部員みんな、演劇ができたことが嬉しかったのです。

リモート劇が 興味を持つきっかけに

オンラインで観客がいつでもどこでも劇を見られるリモート劇は、現在の状況下では有意義だと思えます。観客がリモート劇の視聴をきっかけに演劇に興味を持って、舞台等の生で観る演劇にも興味を持ってもらえたら嬉しいですね。また、動画の再生回数から、どれだけ多くの人に観てもらえたのかがわかるので、興味を持ってもらえる作品作りが少しでもできたのではと思うと、今後の励みになります。リモート劇にも、舞台等の生の劇にも、両方に良い部分があるのだと実感しました。以前のように、劇場で観劇できる状況に事態が収束した後も、1つの表現方法としてリモート劇を多くの人に知ってもらいたいなと願っています。

東京家政大学の仲間へメッセージ

今回、緑苑祭での劇団朱鷺の公演を多くの方が観てくださって、部員一同とても嬉しかったです。ありがとうございました。大変な状況ですが私たちにできることを精一杯しながら頑張っていきたいと思います。以前の様に過ごせるようになったその時は、ぜひ劇団朱鷺の公演を観に来てください！楽しい時間を一緒に過ごしましょう！お待ちしております！



東京家政大学グローバル教育センター

東京家政大学の新しい国際交流、英語教育

グローバルマインドを耕す オンラインだからこそ、伝え合う機会を最大限に生かして

留学生カフェ～オンライン交流会

ものや人が自由に行き交うグローバル化の時代において互いを尊重し、自他の文化を理解することは共に社会の中でうまくやっていくためにとても大切なことです。みなさんは世間の常識やインターネットの情報を鵜呑みにすることなく、目の前の人に寛容になれているでしょうか。物事の本質を探究する素養を育むことは学生である今だからこそ、多く吸収できると考えています。その一つが異文化理解です。

本学には、近隣諸国からやってきた、日本文化に興味を持つ外国人留学生（以下、留学生）がいます。留学生カフェは今までは対面で年に2回開催していましたが、お昼休みにお菓子を食べながら少しお互いの話をするとどまっていた。しかし、今年度コロナ禍で特に前期ですが、留学生の中にはひとり寂しく日本で生活をしている学生もいれば、入国が認められず母国の実家でオンライン授業を受けている学生もいました。そうした留学生にも希望を持って前向きに生活してほしいと、オンラインで学生同士の交流する機会を多く持つことにし、前期3回、後期3回各1時間、身近な話題から自分が「当たり前」と思っていたことについて展開しています。



第1回交流会「わたしのソウルフード」

オンラインでの学生間交流は多くのことをもたらしました。留学生同士がこの企画の打ち合わせを重ねることで先輩、後輩を知り、大変なのは自分だけではないことを知る

ことができました。新留学生は、入学後なれない課題で不安がいっぱいの中、授業外で日本人学生との交流が全く持てませんでした。その中で日本人学生と初めて話をし、自分のことを伝えることができました。これまでの参加者は延べ64名になりました。(第1回～第5回調べ)

またここでは、日本人学生は、異なる民族や文化に属する留学生の話の中から「気づき」を得ることでコミュニケーションの面白さや楽しさを知ることができます。留学生は、会の運営や司会をすることで、日本社会でうまくやっていく自信を身につけています。学生は家にいながら気軽に参加でき、自分が話さなくては会が止まってしまう、オンラインならではの特性が家政大生の背中を押してくれています。国境も板橋校舎も狭山校舎も関係なく、来年度以降も続けていきたいと考えています。

本学が年2回行っている「異文化理解講座」の中で、NPO法人国際ファシリテーション協会からお招きしている講師の椿景子先生は、「入口は国籍でも出口は個人」と講座の最後におっしゃいます。日本人学生同士、留学生同士、そして、日本人学生と留学生と一緒に共感したり違和感を覚えたりしながら、お互いに持続可能なつきあい方を見出せたらうれしいです。



第3回交流会「ファッション&各国の恋愛事情」

参加学生のコメント

- 住んでいる国は違っても大きな壁はない
- 違うからこそ驚きや発見に出会える
- 留学生みなさんの日本が好きな気持ちが伝わってきた

英語教育の中心的存在を担う特任講師

2020年度より、共通英語教育の質の向上を目的として、5名の特任講師が採用されました。具体的には、(1) 学生が英語を自分の言葉の一つとして捉え、自信を持って最大限活用しようとする姿勢を持つこと、(2) 自他の意見を尊重し、多角的に考える力を身につけていること、これらを実現するために、授業や課外活動の環境を整えることが特任講師の使命です。特任講師は、本学の英語教育のPDCA、つまりPlan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)を行う中心的存在です。学生の思いを一番近くでキャッチし、すばやく改善することができます。



アリー・パターソン

アメリカ・ミシシッピ出身。特に、具体化言語学(言語と身体がどのように相互作用するか)について研究しています。目標は、教育学的研究を行うことで、学生の外国の文化と自分の文化についての知識を育むことに取り組んでいきたいと思っています。



ケリー・カーゴス

アメリカ・コネチカット出身。英語講師としての目的は、学生に英語でコミュニケーションを取ることに自信を与え、「英語は自分の言葉の一つ」と思えるようになってもらうことです。これから学生にとってどのような英語が必要かを考えながら、英語カリキュラムを改善していきたいと思っています。

オンラインセッション「Pちゃん」と「Qちゃん」が始動



今年度は学生の英語力を上げる取り組みの一環として、オンラインセッション「P-channel (Pちゃん)」と「Q-channel (Qちゃん)」を始動しました。「Pちゃん」は英会話中心のセッション、「Qちゃん」は英語に関する質問・相談中心のセッションです。どちらも、学生が授業で学んだ内容やスキルを活かし、より実践的な力を磨くための機会です。少人数(1～3人)制のため、インタラクションの機会が多く、また、学生は自身のニーズに合わせてセッションを最大限カスタマイズすることができる(会話や相談のトピックを自由に選択できる)という魅力があります。

参加した学生の満足度は非常に高く、「日本語で話しているかのように話が広がり楽しかった」「フレンドリー且つ細かく丁寧に教えてもらえた」といった声があがっています。生で話すことを喜び、それにより鍛えられることが多いと実感している声が多く、これからもたくさんの学生の英語運用能力の育成に役立つことを願っています。このように、今後一層、学生が英語の「使用者」として自身を捉え、多様な考えに触れることができる場作りをしていきたいと思っています。

アキユキ

酒井 亮征



学んだことを思い出しやすくする仕組み、英語を使うことに慣れる仕組みと場、英語を使ってみたくと思う機会、これらを本学の英語教育に増やしていきたいと思っています。また、英語学習を通して学生が多くのことに関心、クリティカルに考え、自身の意見と他の意見の双方を尊重する力を身につけられるようにしたいと思います。



町村 貴子

「一人ひとりを大切にすること」と「学生と私にとって楽しいことは何かを考えること」を教育モットーとしています。授業では振り返りシートを活用して、学生自身で授業を通して何ができるようになったかを考える時間を設けています。「やればできる」と自分に自信が持てる学生を育てていきたいと思っています。



中野 悠稀

グローバル化は私達の身近な場所にも広がっています。学生が授業や課外活動を通して、「近くに存在しながら実は見えていなかったこと」を認識し、経験や能力を最大限活かしながら、多言語・多文化社会において皆がよりよく生きるための方法をポジティブかつクリティカルに考える力を身に付けられるようサポートしていきます。

附属女子中学校・高等学校

中学 IB(国際バカロレア)教育授業の紹介 「世の中にあると便利な企画」を考える

今年度の中1学年より、IB(国際バカロレア)教育 MYP(ミドルイヤーズプログラム)の候補校としての教育が始まりました。IB教育は、実社会とつながっていく中で様々なことを探究していく活動が多くなります。国語では、2学期に説明文を教材としました。このUnit(単元)は「ものの見方」という重要概念で授業を進めていきます。教材の読解後、新しいものの見方で社会を見るために、「世の中にあると便利な企画」を立てる課題に取り組みました。スイッチ1つで洗濯物が落ちるハンガー、学生専用車両、あらゆるポイントカードが1つにまとまる電子カードなど、ちょっと便利、役に立つ企画を考え、iPadでスライドにまとめて発表しました。

IB教育では様々な課題が生徒たちに提示されます。その課題に対して、中1学年の生徒たちはいつも一生懸命に取り組んでくれています。



スイッチハンガーの案



学生専用車両の案

高校 高等学校入試予定

区分		試験日	試験科目
推薦入試	特進(E)class	A推薦(単願)	1/22(金)
	特進(E)class	B推薦(併願)	1/22・23(金・土)
	進学(i)class	A推薦(単願)	1/22(金)
	進学(i)class	B推薦(併願)	1/22・23(金・土)
一般入試	特進(E)class	単願優遇・併願優遇含む	2/10・13(水・土)
	進学(i)class		
			・適性検査(国・数・英)3科60分 ・グループ面接 ・国・数・英(リスニングあり)(各50分)

中学 中学校入試予定

区分	試験日	試験科目
第1回	特進(E)class	2科目(国語・算数・英語から選択) ※英語のみ面接あり
	進学(i)class	
第2回	特進(E)class	2/1(月) 午後 ①2科目(国語・算数) ②4科目(国語・算数・社会・理科) ③適性検査型 I・II ①～③から1つ選択
	進学(i)class	
第3回	特進(E)class	2/2(火) 午後 2科目(国語・算数)または 4科目(国語・算数・社会・理科)
	進学(i)class	
第4回	特進(E)class	2/3(水) 午後 適性検査型 I・II
	進学(i)class	
第5回	特進(E)class	2/4(木) 午前 2科目(国語・算数)
	進学(i)class	
第6回	特進(E)class	2/10(水) 午前 国算・思考力 I:思考力・課題作文 II:国語・算数
	進学(i)class	

※第2回から第6回の入試は奨学生入試も兼ねます。

中高 2021年 年頭所感 逆境をばねに

～今こそ「自主自律」の発揮の時～



校長 篠澤 文雄

新型コロナウイルス感染症の拡大で始まった2020年度。附属中高は5月末までの臨時休業中、タブレットを活用して課題学習とオンライン授業を実施した。6月の学校再開後は分散・時差登校と短縮授業、夏季休業の短縮等により学びの保障に取り組み、11月から通常授業になった。その間、独自の「感染症対応ガイドライン」を作り、生徒、教職員が一体となって感染防止に努め教育活動を進めてきた。最大の学校行事の緑苑祭も、生徒たちはさまざまな制約がありながらも何とか実施したいと工夫を凝らし、展示と動画による発表形式の文化祭を実施することができた。このように中高は、生徒、教職員が一丸となって、今こそ「自主自律」の建学の精神の発揮の時と、逆境をばねに創意工夫した取組を行っている。

ところで、いま我が国は、情報化、グローバル化とともに、AI導入などの科学技術の進歩は目覚ましく、社会の高度化やスマート化が急激に進展している。一方、ライフスタイルも多様化し、少子高齢化により、あらゆる分野において女性の活躍が期待されている。いまや女性は、さまざまな選択肢の中から自分を最も輝かせ、活かすことができる生き方を選ぶ時代になってきている。この社会の変化に対応するためには、中高生の頃から自分の特性を知り、未来の自分のために自己を磨いていくことがとても大切になってきている。

本校の「ヴァンサンカン(※)・プラン」は、理想の「25歳」の自分像に向かって自己を磨いていく独自のキャリア教育プランである。まずは自分を知り、地域を知り、自国や世界を知ることで、自分を活かすことができることは何かがわかる。今年度から、キャリア教育は中1から高2まで、主体的な学びを通して視野を広げる「総合探究」(総合的な探究の時間)の中に位置付けた。自ら問いを立て探究し、伝えて振り返る「探究学習」を通して、生徒たちは未来の「なりたい自分」、理想の「25歳」の自分像の実現を目指して、わくわく感を持って

本校独自の学びを深めている。

中高では、今年度から主体的で深い学びの「探究学習」と英語のアウトプット力をつける「英語プレゼン力育成」を「KASEIの学び」と考え、学びの2大コンセプトとしている。私たちに今、SDGsなどの地球的課題を抱え、未来を創造する思考力や課題解決力が求められている。中高は、これを未来学力と考え、今年度より国際的な視野に立ち、自分で考え、探究し、挑戦する生徒を育成するIB(国際バカロレア)教育を導入し、MYP候補校として、学びのスキルの習得に取り組み始めた。

IB教育は、課題を設定して探究し、発表する「探究学習」を通して、学びの10のスキル(ATL)を身につけて学んだことが使えるようになるという学びであるが、これは新学習指導要領の目指す学びと同じである。IB教育は、この学びスキルの習得を通して、思いやりのある人、知識のある人など、人間性を重視した10の学習者を育て、生涯学び続ける人(自主自律的学習者)を育成する教育プログラムである。中高では、このIB教育の理念と本校の「自主自律」の建学の精神、「愛情・勤勉・聡明」の生活信条が符合することから導入することにした。今年は導入2年目を迎える。まだまださまざまな課題があるが、新たな学びの定着を目指し、試行錯誤しながら実践していきたいと考えている。

さらに、大学入試改革で求められている英語4技能の強化に向け、外部機関を活用してオンライン英会話や英語プレゼン力育成講座も導入し、中高は今、学びの改革を進めている。

これからも附属中高は、140年の歴史を踏まえ、建学の精神と生活信条の実践を通して、豊かな知性と品性を備え、未来を創造し、世界で輝く自律したKASEI WOMEN(目指す生徒像)を育成して、大学附属校としての使命を果たしていく所存である。

(※) フランス語で25歳の意味

中高 英語プレゼン力育成講座

SDGsを中心に、未来学力の定着を期待

英語プレゼン力育成講座が、今年度よりスタートしました。附属中高の教育の柱である探究学習と英語プレゼン力育成の一環として、今回は中3、高1、高2の3学年が、10～15名の小グループに分かれ、経験豊かなネイティブ教員からトレーニングを受けています。

内容は、SDGsを中心に地球が直面する諸問題について理解を深めながら徐々に問題解決の方法を探り、最終日には自分の考えを英語で発表します。3日間集中的なトレーニングを受けることにより、生徒一人ひとりの中により広い視野と達成感が育まれ、未来学力として定着していくことが期待されます。

中学1、2学年は3月に実施予定です。新型コロナウイルス感染症の感染予防策を講じて校内で実施するこのプログラムが、生徒にとって実り多き学びの機会となることを期待しています。



関東エリアの女子大学で志願度トップに!

進学ブランド力調査 2020 (株式会社リクルートマーケティングパートナーズ) の進学したい大学ランキングにおいて、東京家政大学が関東エリア女子大学でトップとなりました。また、「資格取得に有利である」では4位に、「専門分野を深く学べる」では7位にランクインしました。

※この調査は2021年3月卒業予定の高校3年生(1万6,721名(関東エリア女子高校生 3,979名))に対して行ったものです。関東エリア248校が対象となっています。

《志願度ランキング 関東エリア女子生徒全体(2020年)》		《資格取得に有利である(2020年)》		《専門分野を深く学べる(2020年)》	
1 立教大学	11 北里大学	1 東京大学	1 東京大学	1 東京大学	1 東京大学
2 青山学院大学	12 千葉大学	2 慶応義塾大学	2 東京藝術大学	2 東京藝術大学	2 東京藝術大学
3 早稲田大学	13 明治学院大学	3 中央大学	3 中央大学	3 東京音楽大学	3 東京音楽大学
4 明治大学	14 東京都立大学	4 東京家政大学	4 北里大学	4 北里大学	4 北里大学
5 法政大学	15 帝京大学	5 早稲田大学	5 東京理科大学	5 東京理科大学	5 東京理科大学
6 上智大学	16 國學院大学	6 日本赤十字看護大学	6 武蔵野音楽大学	6 武蔵野音楽大学	6 武蔵野音楽大学
6 日本大学	17 東京家政大学	7 青山学院大学	7 東京家政大学	7 東京家政大学	7 東京家政大学
8 東洋大学	17 学習院大学	8 上智大学	8 日本赤十字看護大学	8 日本赤十字看護大学	8 日本赤十字看護大学
9 中央大学	17 杏林大学				
10 慶応義塾大学	20 駒澤大学				
	20 順天堂大学				

次期学長に井上俊哉教授を選出



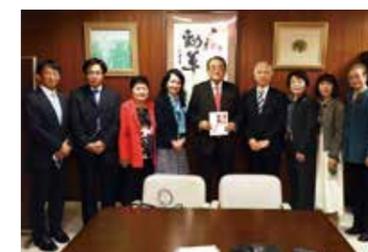
東京家政大学では、現・山本和人学長の任期満了(2021年3月31日)に伴い、2020年12月2日(水)に学長候補者についての意向投票を実施いたしました。その結果、2020年12月22日(火)の定例理事会にて、井上俊哉副学長(人文学部心理カウンセリング学科教授、学修・教育開発センター所長)を次期学長に選出いたしました。任期は2021年4月1日から2025年3月31日までです。

緑窓会から1億円寄付、新型コロナ学生支援奨学金に

2020年10月27日、緑窓会(東京家政大学・東京家政大学短期大学部の同窓会組織)から、新型コロナ学生支援奨学金として、1億円の寄付があり、贈呈式が行われました。贈呈式には菅谷理事長及び山本学長並びに本学関係者、山田緑窓会会長及び緑窓会関係者が列席して行われました。

今回の奨学金には、渡辺学園創立140周年記念事業に際して寄付すると共に、コロナ禍の中、入学した学生が経済的な理由で未来を奪われることのないよう、また、卒業まで安心して修学できるように、との想いが込められています。

寄付金は、給付型授業料支援奨学金として活用していく予定です。



「女子のための起業応援セミナー」開催



2020年11月8日(日)、ヒューマンライフ支援機構主催の「女子のための起業応援セミナー」を、Webex によるオンライン配信(学内限定)で開催しました。好きなことを仕事として起業した卒業生の話や、学生自身が将来の選択肢のひとつとして、ちょっとしたことで「仕事」となるということに気づき、行動するきっかけになるよう、情報提供することを目的としました。

学生インタビュー

当日は、学生インタビューの遠藤愛さん(英語コミュニケーション学科3年)、佐藤万友さん(栄養学科栄養学専攻3年)が、卒業生のカフェオーナー 椿ひとみさん(造形表現学科卒)、フォトグラファー 梅沢香織さん(短期大学部服飾美術科卒)、フラワーサイクリスト 河島春佳さん(服飾美術学科卒)に、事前に学生から募った質問を元に「学生時代にやっておいた方がいいこと」「起業につながった人脈や資金について」「コロナ禍でのお仕事状況」などについてインタビューを行い、約40名の学生が参加しました。

参加した学生からは、「ワクワクする、やってみたいと思えることに会ったら、ためらわずにやってみようかなと勇気が出ました。」「今、楽しいと思えることや興味があることにたくさん挑戦したいと思った。」「自分から発信して積極的に動くこと、固定観念にとらわれないこと」が大切なのだと改めて思うことができ、とても良かった。」などの感想が寄せられました。来年度以降もこの企画を続け、他の学科卒業生の皆さんもたくさんご紹介していきます。



佐藤 万友さん



遠藤 愛さん



椿 ひとみさん



梅沢 香織さん



河島 春佳さん

緑苑祭は史上初のオンライン開催

クイズ王決定戦、モザイクアートなどの斬新な企画も誕生

2020年度の緑苑祭は史上初のオンライン開催となりました。緑苑祭実行委員の「コロナ禍の状況でも大学全体を盛り上げたい」という強い思いから実現しました。

板橋キャンパスのテーマは、「shine ~苦難に咲く花たち~」。オンライン緑苑祭をきっかけとして新たな日常の中でも楽しむことを忘れず、自分らしさを表現し、輝いていこうという思いが込められています。それぞれの団体が例年の活動紹介動画やリモート演劇など、バラエティーに富んだ企画を作成し配信しました。特に生配信企画の「家政大クイズ王決定戦」は2020年に新たに考案した企画で、東京家政大学・流行・地理など様々なジャンルからクイズを出題し、事前応募のあった参加者とのクイズ模様を緑苑祭公式 Twitter と連携しながら配信を行い、視聴者も楽しめる企画として好評でした。

狭山キャンパスのテーマは、「Power of smile ~笑顔の力~」。コロナ禍で様々な活動が制限されている状況下、笑顔の力で乗り切ろうという思いが込められています。当日は、一般向けと学内向けの動画が配信されました。一般向け配信では、学生・教職員から寄せられた「笑顔をもらった写真」を使用したモザイクアート、かせい森の放課後等デイサービス「つくし」に通う子どもたちが制作した作品紹介、狭山キャンパスオリジナルキャラクター「かせいのモリタン」と「かせいのモリリン」の誕生から「ゆるキャラグランプリ」出場までの軌跡、受験生に向けた在学生からの応援メッセージ、その他参加団体の軽音ライブなどを配信しました。学内向け配信では、先生方の昼食を取材した「先生メシ」、360度カメラを使用したキャンパス施設案内、他オリジナル企画を配信しました。

2020年度の緑苑祭は、遠方やその他の理由でこれまでは緑苑祭に来ることができなかった方々が気軽に視聴することが可能になり、オンライン開催の利点も発揮されました。ご視聴いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



類があるかを調査しました。分析の結果、図1のような因

細やかな思考力・判断力	・女性には、物事を見極めて判断する力がある ・女性性は、きめ細やかに考えることができる
社会の中でのチャレンジと成長	・女性性は、社会の中で成長できる ・女性性は、社会の中で積極的に活動・チャレンジしている
献身的で愛情深い	・女性性は、他者に尽くす ・女性性は、周囲をサポートし、支える
自立しておらず補佐的	・女性性は、他者を頼って助けてもらう ・女性性は、裏方作業に適している
感情的でしたか	・女性性は、相手によって態度をかえる ・女性性は、感情的だ
見た目がよく清楚	・女性性は、おしゃべりだ ・女性性は、清楚だ

図1 本研究で抽出された女性観

図1 本研究で抽出された女性観
社会的であらゆる分野で活躍できる実力を有しています。にもかかわらず、自分に自信が持てず自己評価が低かったり、それ

「女性はこうあるべきだ」 暗黙の女性像からの解放

近年、我が国では「一億総活躍社会」がうたわれ、社会の様々な場面で女性の活躍が期待されています。しかし、「世界ジェンダーギャップ報告書2020」で日本は世界153ヶ国中121位と過去最低の順位であり、未だに性別へのとらわれや性別役割分担の

暗黙の女性像からの解放
近年、我が国では「一億総活躍社会」がうたわれ、社会の様々な場面で女性の活躍が期待されています。しかし、「世界ジェンダーギャップ報告書2020」で日本は世界153ヶ国中121位と過去最低の順位であり、未だに性別へのとらわれや性別役割分担の

家事や育児は女性だけではない その意識の二方面

家事や育児は女性だけではない
その意識の二方面
家事や育児は女性だけではない。現代の青年期男女の自由な女性イメージから女性観スケールを作成しました。しかし今年度の調査では、予想された「家事・育児・家庭」に関する因子は抽出されませんでした。つまり、「家事や育児は女性だけが行うものではない」など、若い世代の性別に対する意識が以前のものとは変わってきている可能性が考えられます。しかし一方で、「献身的で愛情深い」、「自立しておらず補佐的」、「見た目がよく清楚」といった女性像は、従来型の性別役割分担や男性から期待される女性像を反映しているともいえます。たとえば、女性は「献身的に愛情深く家族を支える」や「職場や家庭で主体的にふるまうのではなく男性を補佐する」といったイメージが浮かびます。つまり、時代の流れの中であからさまな性別意識はなくなりつつあるものの、私たちの意識の奥に、知らず知らずのうちに固定化されている女性観があるのかもしれない。

家事や育児は女性だけではない
その意識の二方面
家事や育児は女性だけではない。現代の青年期男女の自由な女性イメージから女性観スケールを作成しました。しかし今年度の調査では、予想された「家事・育児・家庭」に関する因子は抽出されませんでした。つまり、「家事や育児は女性だけが行うものではない」など、若い世代の性別に対する意識が以前のものとは変わってきている可能性が考えられます。しかし一方で、「献身的で愛情深い」、「自立しておらず補佐的」、「見た目がよく清楚」といった女性像は、従来型の性別役割分担や男性から期待される女性像を反映しているともいえます。たとえば、女性は「献身的に愛情深く家族を支える」や「職場や家庭で主体的にふるまうのではなく男性を補佐する」といったイメージが浮かびます。つまり、時代の流れの中であからさまな性別意識はなくなりつつあるものの、私たちの意識の奥に、知らず知らずのうちに固定化されている女性観があるのかもしれない。

原因で新しいことになかなかチャレンジできない学生が少なくありません。また、「女性は裏方」「男性が前に立ち、女性はそれを補佐」といった意識をもつ学生の存在も目につきました。そして、このような意識が彼女達の思考や行動を狭めてしまい、本来の力を十分に発揮できていないように感じられました。裏を返せば、もしこのような意識から解放され、自分に自信をもって積極的に物事に取り組むことができれば、一人ひとりがより活き活きと幸福になるのではないかと感じました。

原因で新しいことになかなかチャレンジできない学生が少なくありません。また、「女性は裏方」「男性が前に立ち、女性はそれを補佐」といった意識をもつ学生の存在も目につきました。そして、このような意識が彼女達の思考や行動を狭めてしまい、本来の力を十分に発揮できていないように感じられました。裏を返せば、もしこのような意識から解放され、自分に自信をもって積極的に物事に取り組むことができれば、一人ひとりがより活き活きと幸福になるのではないかと感じました。



*執筆者 岡島義

子が抽出されています。今年度はこの質問項目を用いて、年代や職業の有無によって女性観が違ってくるのか、あるいは、女性観の違いによって在りのまま生きていく感覚や自己への自信が異なるかを調査しています。

子が抽出されています。今年度はこの質問項目を用いて、年代や職業の有無によって女性観が違ってくるのか、あるいは、女性観の違いによって在りのまま生きていく感覚や自己への自信が異なるかを調査しています。

子が抽出されています。今年度はこの質問項目を用いて、年代や職業の有無によって女性観が違ってくるのか、あるいは、女性観の違いによって在りのまま生きていく感覚や自己への自信が異なるかを調査しています。

子が抽出されています。今年度はこの質問項目を用いて、年代や職業の有無によって女性観が違ってくるのか、あるいは、女性観の違いによって在りのまま生きていく感覚や自己への自信が異なるかを調査しています。

子が抽出されています。今年度はこの質問項目を用いて、年代や職業の有無によって女性観が違ってくるのか、あるいは、女性観の違いによって在りのまま生きていく感覚や自己への自信が異なるかを調査しています。

子が抽出されています。今年度はこの質問項目を用いて、年代や職業の有無によって女性観が違ってくるのか、あるいは、女性観の違いによって在りのまま生きていく感覚や自己への自信が異なるかを調査しています。

子が抽出されています。今年度はこの質問項目を用いて、年代や職業の有無によって女性観が違ってくるのか、あるいは、女性観の違いによって在りのまま生きていく感覚や自己への自信が異なるかを調査しています。

東京家政大学博物館 秋の特別企画展 きもの色 — 藍と紅を中心に —

東京家政大学博物館では、毎年春と秋に企画展を開催しています。今年度の春の企画展は来年度に延期となり、秋の特別企画展は2020年10月15日(木)～11月19日(木)までの学内限定公開となりました。

藍や紅花といった天然染料の歴史や染色方法などの紹介とともに、17世紀から21世紀の天然染料による作品を展示しました。また、校祖・渡邊辰五郎の出生地である千葉県長南町と長南紅花について、その歴史と現在の取り組みについても紹介しました。来館者アンケートには「授業で触れた染めについて実際に見ることができて、貴重な体験ができた。」「染色にまつわる様々な展示があり、多方面から色について知ることができ、とても見応えがあった。」といった感想が寄せられました。



廊下を彩った日本の伝統色



長南紅花で染められたきもの



藍の歴史や染色布



藍染めされたきもの



紅花染めされたきもの



紅花の歴史や染色布



草木染めされた絹糸
山崎和樹(草木染研究所柿生工房主宰)蔵

理事長コラム “世界を生きる”

学校法人渡辺学園理事長 菅谷定彦

日経ニューヨーク特派員時代⑥

中南米、2週間の珍道中(中)

プエノスアイレスのホテルで一泊した翌朝、大使館を尊敬した後、三菱商事を訪問すると「たった今軍部によるクーデターが発生。カンボラ大統領が追放された」と伝えられた。三菱商事への途中、大統領府を戦車7〜8台が取り巻いてはいたが街中は平穏だった。しかし、ニュースではあるので、大使館、三菱商事スタッフの話や外電情報を集め三菱商事のテレックスを借りて、軍事のクーデターのニュースを打電した。

アルゼンチンでは1946年、統一将校団を率いて政権を奪取した。ペロン大統領も1955年に軍部のクーデターで追放され(その後復権)しており、今回のクーデターも軍内部の勢力争いで発砲もなく終結された。政権幹部へのアポは全てキャンセルになったが、東京銀行支店長から夕食会は予定通りとの連絡で、街の中心部にあるレストランでアルゼンチン・タングの生演奏を聞きつつ、美味しい肉料理を満喫した。

アルゼンチンはラプラタ川流域の中央部に広がる肥沃な大草原パンパで温暖な気候の下、食肉、小麦、大豆を大量に産



ラプラタ川 太平洋に注ぐ

出する農業国。しかし鉱工業は手薄でGDP(国内総生産)は5206ドルとブラジルの3割弱。人口が4500万人と少ないため一人当たりGDPはブラジルやメキシコを上回ってはいる。

しかし軍事政権下の総兵力74000人を養う国防費が50億ドル強とGDPの10%近くを占め、財政を圧迫、これを海外諸国や国際機関からの借入金でまかなう構図だ。このため年率50%前後のインフレが続く。通貨のデノミをしばしば行わざるを得ない。パンパやラプラタ川を案内してくれた日本大使館員によるとアルゼンチン政府は「いまは地上の農作物で暮らしているが本当に困ったら地下資源を活用できる」のが口癖と言うが、前途は楽観出来まい。

次の訪問地チリのサンディアゴ空港で税関に入ると「何泊するのか」聞かれ、「2



チリ・サンディアゴ市内の女性の行列(1972年初夏)

泊と答えられ、大使への挨拶のため大使館へ直行した。すると旧知の外交官が待ち構えていて「米ドルを出せ。公定レートは10倍に変わるぞ」。空港分を含め手届けかばんがパンパンになり大金持ちの気分で大使館員2人と三菱商事支店長も招き、最高級レストランで夕食を共にした。

チリは3W(ウェザー、ワイン、ウーマン)が世界一、南米では3C(チリ、コロンビア、コストリカ)が3大白人美女国など面白い話を聞きながらワイン4本を平らげて支払ったのはドル換算で10ドル。最高級ホテルの2泊料金は6ドルだった。終了後丸紅支店長とバーで1時間程懇談。充実の一日だった。

翌日、中央銀行総裁とのアポが取れ、空港での強制的なドル支払いの話をするので、「申し訳ないがチリは外貨不足に悩んでいるので」、続けて「1970年に発足したアジエンテ社会党政権が米国系銅山、銀行を国有化し社会主義経済を目指したが、72年からストライキが頻発、経済社会は混乱状態の最中にある」と話した。見通しを聞くと、「不透明」と率直に答えてくれた。果たせるかな1973年9月、軍事クーデターが発生、アジエンテ大統領は自殺に追い込まれた。

チリは銅の生産、埋蔵量で世界一。GDPは3000億ドルと6カ国中第4位だが人口が1900万人と歴訪国最小のため一人当たりGDPは15030ドルと最高水準である。しかしその富は貧しい人々に行き渡らず、主力の銅は価格変動にさらされ外貨収入も不安定だ。発展への道は容易ではない。

次の訪問国ペルーは事前に閣僚のアポが取れなかったため、インカ帝国の遺物を長年根気よく掘り出し首都リマに立派な天野博物館を設立した天野館長に面談の予約を取った。館長は2時間に渡り遺物を一つ一つ丁寧に説明され、インカ帝国への強い愛情を感じることが出来た。

翌朝、予約済みのペルー航空に電話してメキシコ行の座席をコンファーム(確認)したところ「全く問題ない」との返事。タクシーをチャーターしてリマ市と周辺をまわったが、人口の45%を占める先住人の暮らしは貧困に見えた。ペルーは世界有数の銀産出国で銅と亜鉛も輸出、観光資源は世界遺産であるマチュピチュの遺構、ナスカの地上絵などはあるものの、GDPは2200億ドル、3250万の人口一人当たりのGDPも6000ドル(わが国は30000ドル強)と貧しい。しかし1990年に日系2世のフジモリ大統領を輩出したように日系人は10万人と世界有数で親日国でもある。日本のODA(政府開発援助)の増加が望まれる。

(注) 経済、人口は共同通信社の世界年鑑から引用(2018〜19年ベース)。

※次号は日経ニューヨーク特派員時代⑦「中南米、2週間の珍道中(下)」です。